

移住促進対策について

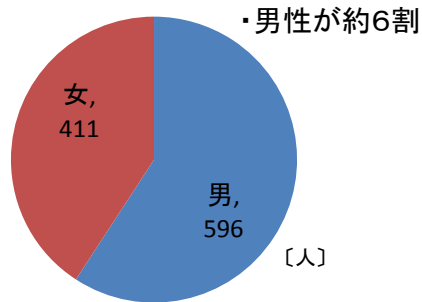
～転入者アンケートから見えること～

実施期間:平成26年10月1日～20日
対象者:1,007世帯(H23～H25の転入者)
回収率:34.8%
調査方法:郵送配布、郵送回収

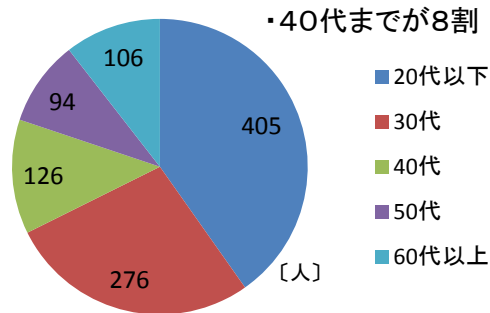
H27.3
鹿角市政策研究所

1. 転入者の状況

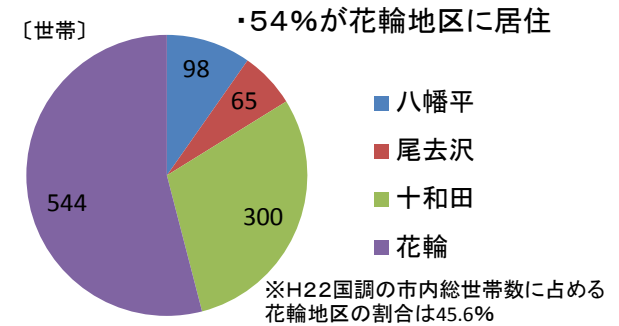
①性別(世帯代表者)



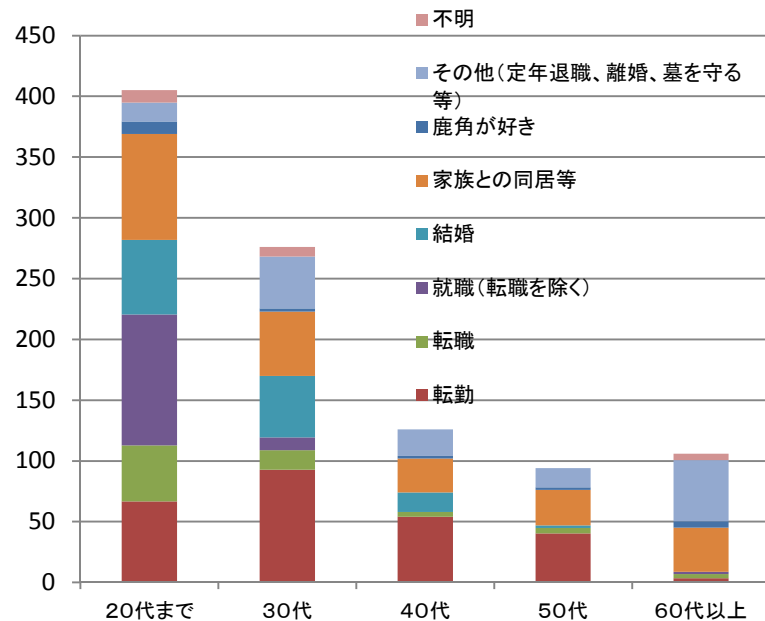
②年代(世帯代表者)



③居住地



④転入のきっかけ(推計結果)



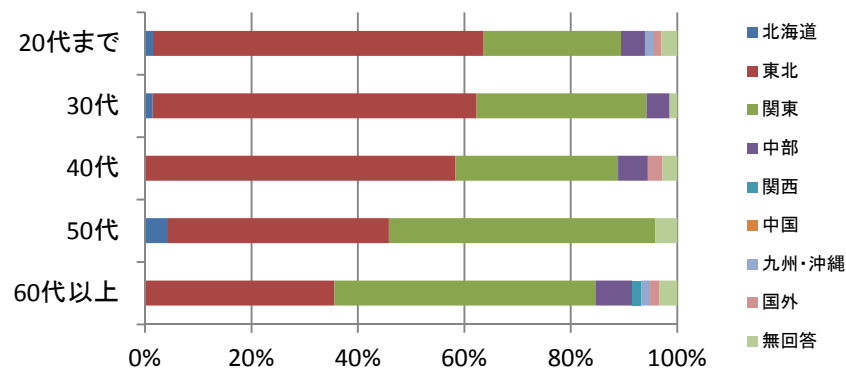
- ・最も多いのは「**転勤**」、次いで「家族との同居等」
- ・転勤者のほか、「家族との同居等」と「その他」に含まれる消極的理由(親の介護のため、墓を守るため、病気療養のため等)を除いた割合は約60%→**転入者の約6割が自発的な転入**
- ・自発的な移住が50%を超えるのは30代まで

転勤	257	25.6%
転職	74	7.3%
就職(転職を除く)	120	11.9%
結婚	130	12.9%
家族との同居等	234	23.2%
鹿角が好き	22	2.2%
その他	146	14.5%
不明	23	2.3%

(注)①～③は住民基本台帳からの分析(N=1007)、④はアンケート結果をもとに推計したもの(N=1007)、次ページ以降の⑤～はアンケート結果(N=350)

⑤転入前の居住地 (転勤を除く)

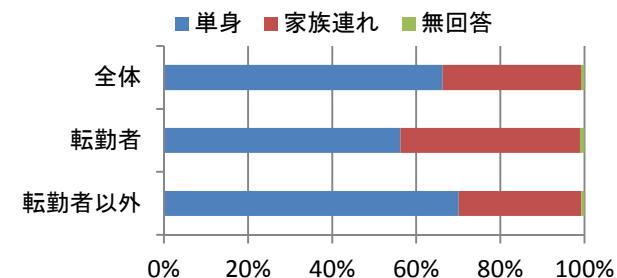
※転勤者は6割超が秋田県内、8割超が東北地方



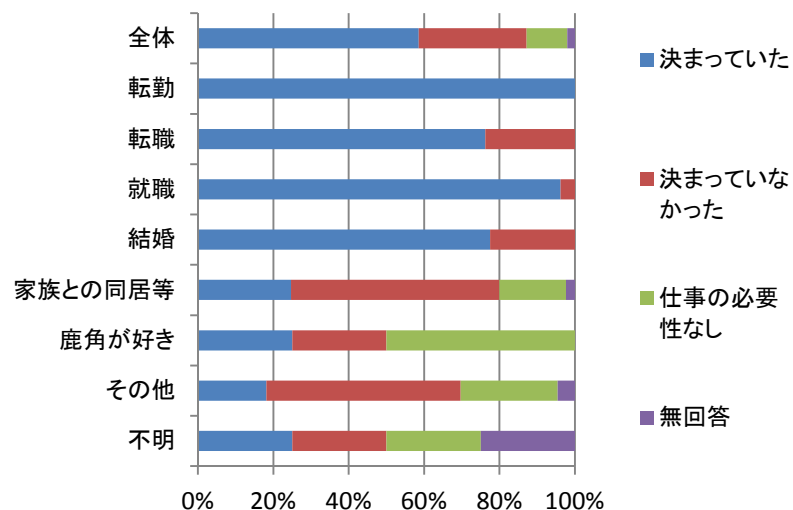
- ・若い年代では東北地方からの転入割合が高い
- ・高齢になるにつれ関東地方からの転入が増える

⑥家族構成

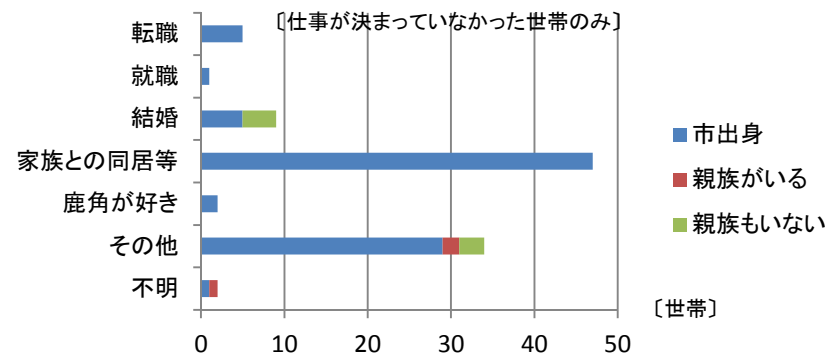
- ・家族連れが多いのは転勤者
- ・それ以外は全年代で単身での転入が多い



⑦転入時の就業状況

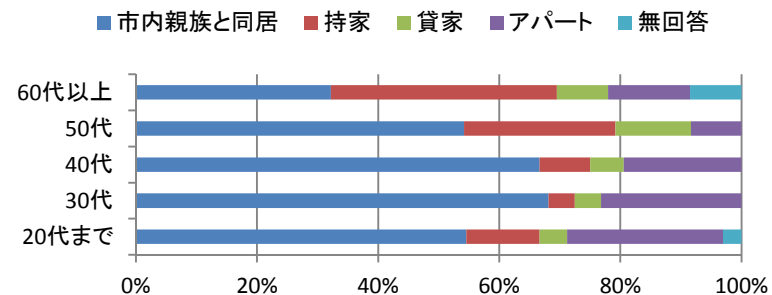
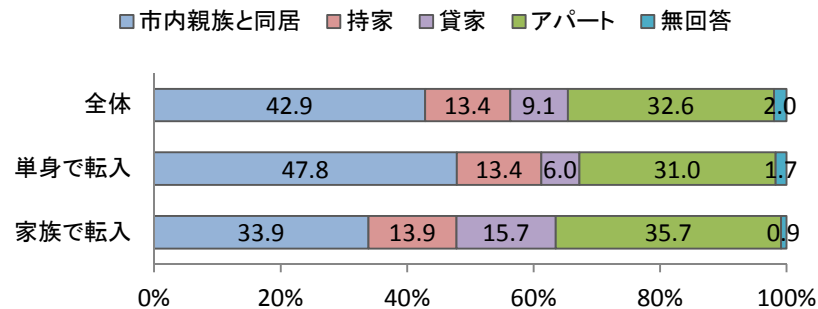


- ・転入理由が「家族との同居等」「その他」の世帯では、半数以上が転入時に仕事が決まっていなかった
- ・仕事が決まっていなかった方の9割は市出身者
→仕事の有無に関わらずUターンの意向が強い？

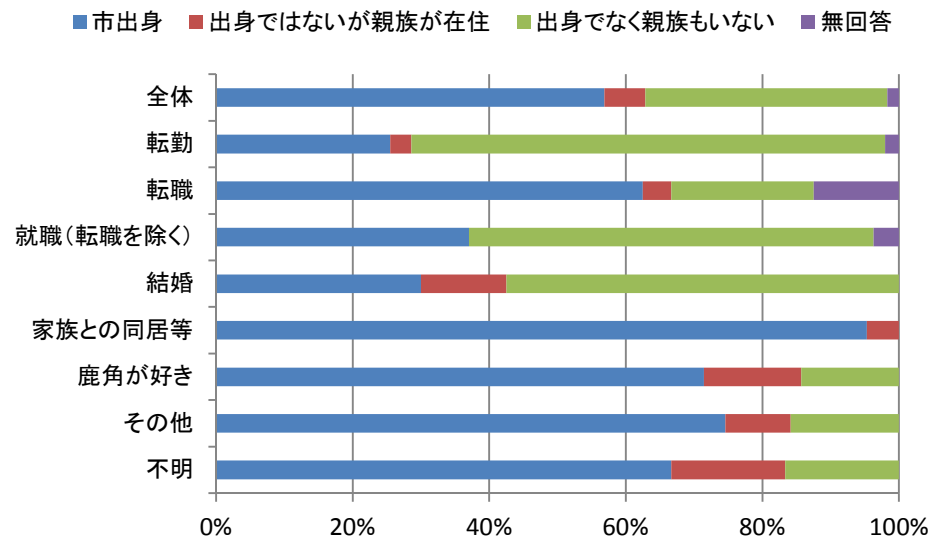


⑧住まい

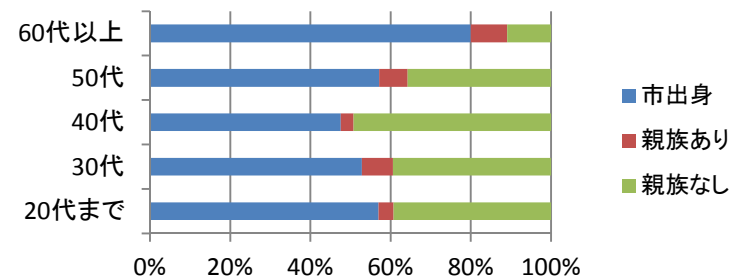
- ・貸家・アパートへの入居割合が高いのは、家族で転入する世帯と若年世代
- ・市出身者でも約13%はアパートに居住
- ・高い家賃、物件情報がネットで把握できないなどの不満あり



⑨出身別の状況



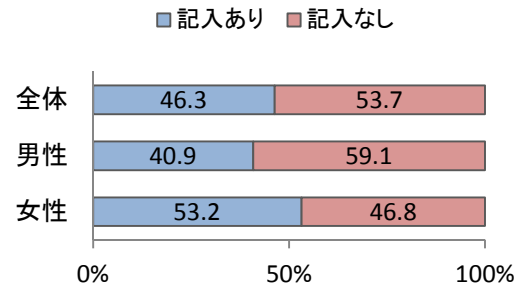
- ・市出身者の割合は約57% (男女で差なし)
- ・転入要因別では、転勤、就職、結婚で、市外出身者の割合が高い
→Iターン就職も一定程度ある
- ・年代別では、60代以上が多い



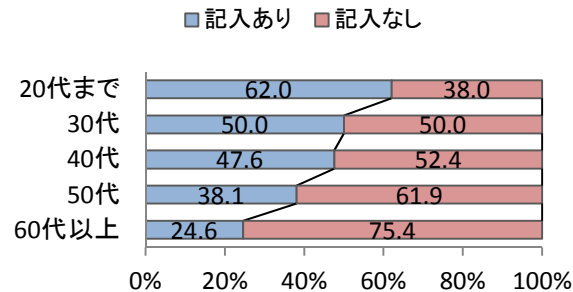
2. 転入の際の不安

①不安があったとする割合（全回答者）

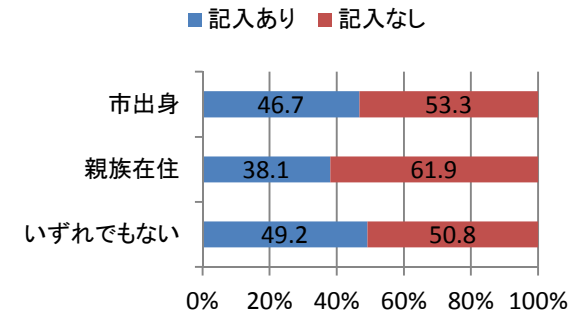
・半数近くが不安あり



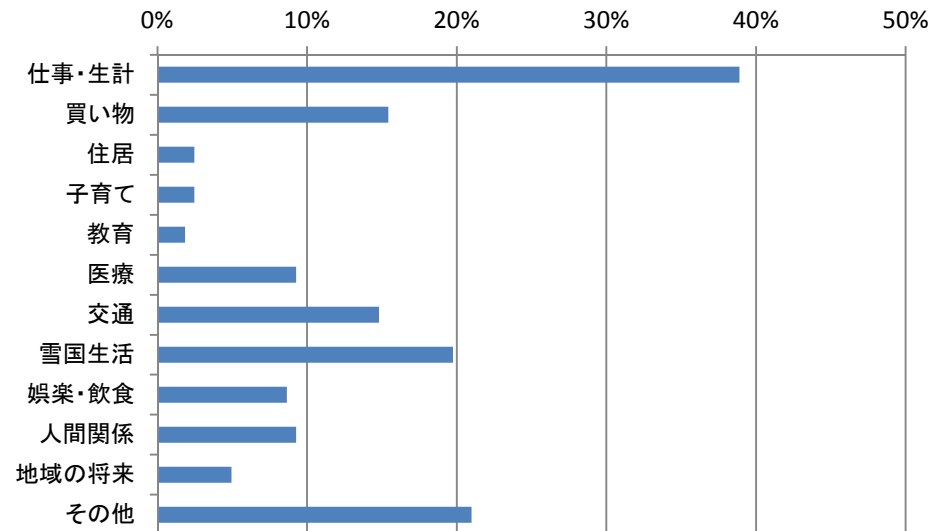
・若い世代ほど不安を感じている



・市出身者でも不安



②感じた不安の内容（不安の記述回答をした162世帯が挙げた割合）



・不安の4割近くは「仕事・生計」（世代等に共通）

就職先が見つかるか？
暮らしていけるだけの給料をもらえるか？ など

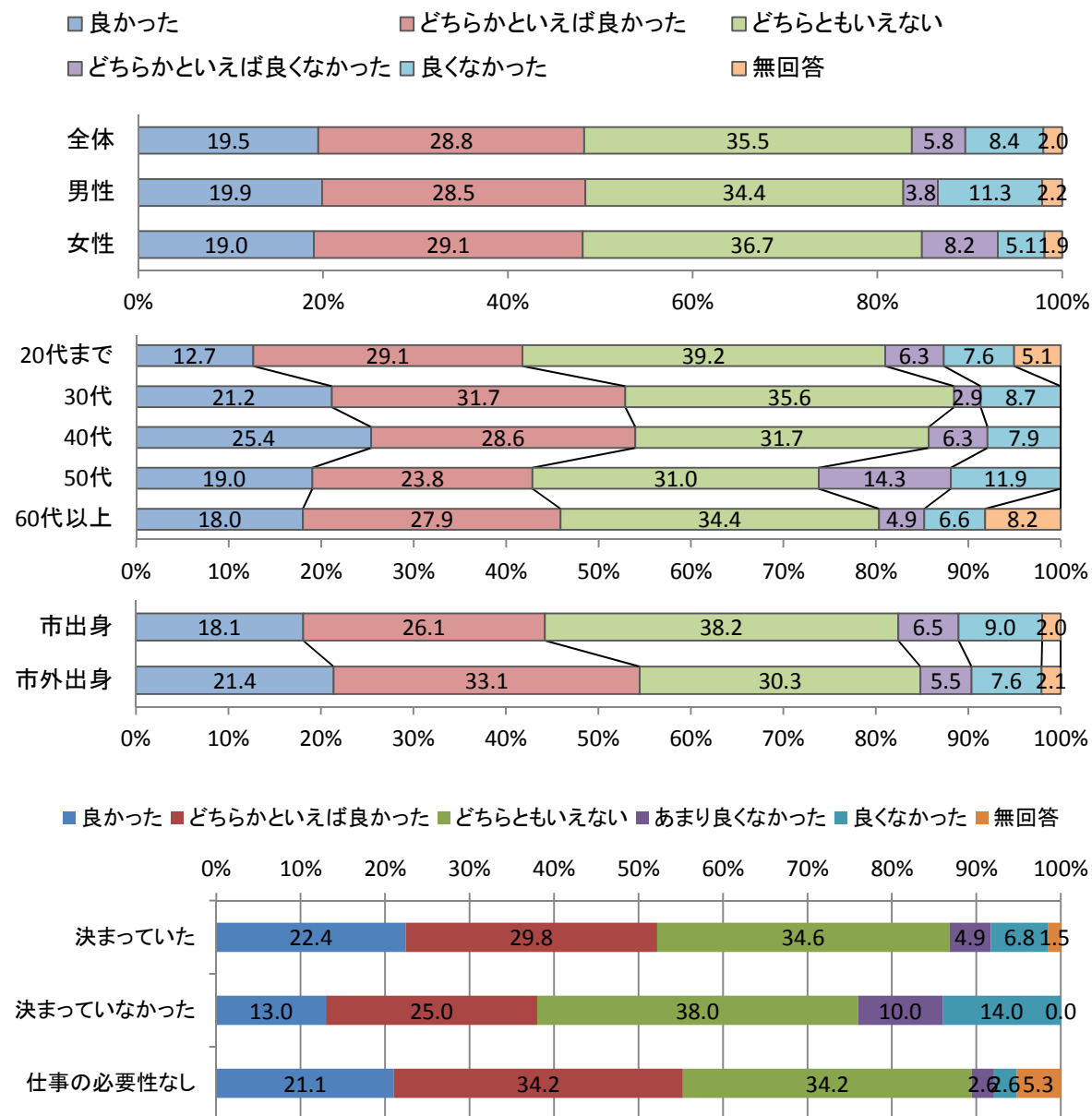
・雪国での暮らしに対する不安も大きい

除雪がたいへん、冬道の運転が怖い、寒さに慣れるか など

・年代別では、50代で交通に対する不安、60代で医療に対する不安が大きい

・転入要因別では、転勤や就職の場合に、娯楽・飲食環境に対する不安が比較的大きい

3. 転入に対する評価（鹿角市に住んで良かったと感じているか）



<全体>

・肯定的評価（「良かった」「どちらかといえばよかった」）は49%
→肯定的評価が過半数に達していない

<年代別>

・30代と40代で肯定的な評価が50%を超えたが、50代では否定的評価が最も多い

<出身別>

・市外出身者のほうが評価が高い

<転入理由別>

・市外出身者が多い転勤、就職で肯定的な評価が50%を超えたが、家族との同居等の世帯の評価が低い

<転入年度別>

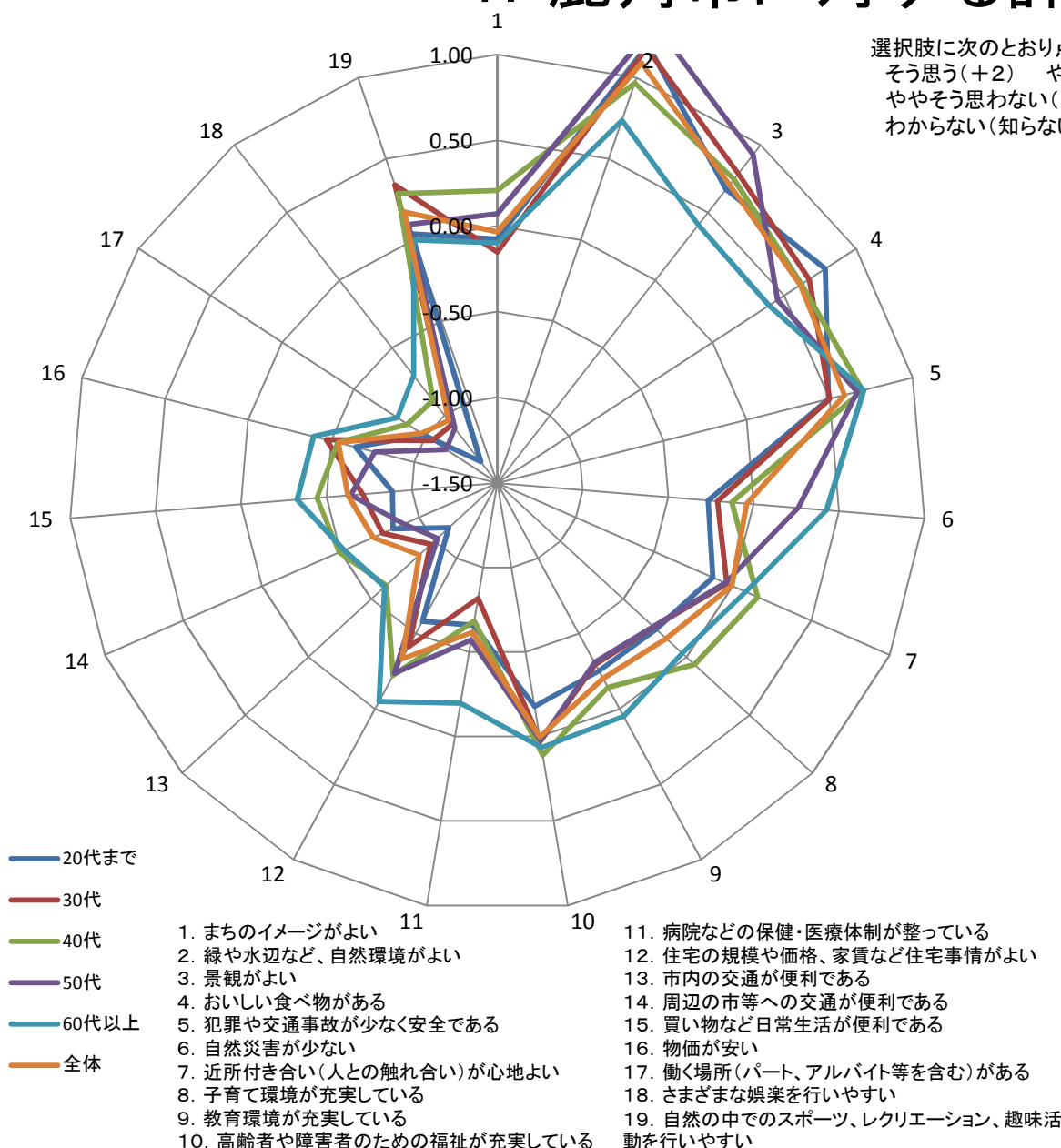
・転入年度が前であるほど、否定的な評価が高くなる傾向
→定住意欲が減退？

<就業状況別>

・仕事が決まっていた世帯と仕事をする必要がなかった世帯で肯定的評価が50%超
・仕事が決まっていなかった世帯では否定的評価が1/4弱

4. 鹿角市に対する評価

選択肢に次のとおり点数を付与し、その合計値を回答者数で除して比較した
 そう思う(+2) ややそう思う(+1) ふつう(0)
 ややそう思わない(-1) そう思わない(-2)
 わからない(知らない)(0)



<全体>

- ・まちのイメージ(1)は0をわずかに下回り、マイナスの評価
- ・自然環境(2)への評価が最も高く、景観(3)、食(4)、安全性(5)でよい評価
- ・一方、娯楽の多様性(18)や雇用機会(17)、生活の利便性(12~16)、保健・医療体制(11)が低い評価

<年代別>

- ・まちのイメージが40代、50代でプラス
- ・若い世代では、交通の利便性(13~14)、買い物環境(15)、娯楽環境(18)で特に低い

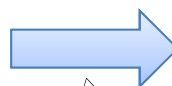
【転入に対する評価との関係】

- ・転入して良かったと感じている世帯は高めの評価となり、良くなかったと感じている世帯の評価は厳しめであるが、項目に対する評価傾向はやや同じ。
- ・評価に開きがあるのは、景観がよい(3)、おいしい食べ物がある(4)、近所付き合いが心地よい(7)など。
- 本市ならではの部分を評価するかどうか
 が転入に対する評価にも影響？

5. UJIターン等移住促進に向けて

①可能性

- ・転勤者を除くと自発的転入は東北地方から9割、関東地方から7割
- ・若い世代は東北地方から、高い年代は関東地方から
- ・全体の約57%がUターン（転勤者を除くと東北地方からは7割弱、関東地方からは9割弱）
- ・仕事が決まっていない状況でも、Uターンが多い
- ・Iターンの割合も一定程度ある



20代から40代までの
都市部住民の過半数が
地方移住を検討
(H26内閣府調査)

移住を進めるチャンス

②方向性

- ・仕事・生計に対する不安
- ・医療体制への不安（特に小児科、耳鼻咽喉科）
- ・生活交通が不便
- ・雪に対する不安
- ・娯楽施設・大型ショッピングセンター等のニーズ
- ・景観、食、コミュニティの評価が高い人は転入に対する評価も高い
- ・子育て・教育に関する評価が高くない



・雇用機会の創出を最優先に、暮らしやすい環境（医療・生活交通）を整備する
基盤産業（移出産業）を育てる
→娯楽施設・ショッピングセンターは人口に比例する非基盤産業



・よい点をしっかり評価してもらえる情報発信
鹿角ライフのよさを提案する

④移住促進事業のイメージ

